

「個に応じた指導」編

さぬきの授業 基礎・基本

～ 子どもに学びのときめきを～

実践事例集Ⅵ



平成27年3月
香川県教育委員会

目 次

I	はじめに	2 p
II	子どもと教材を的確に把握した指導	3 p
○	「つまずきを想定する」とは？	
【小算】	単元を通しての意識付けとヒントカード	4 p
【中理】	素朴概念の分析から教材開発	5 p
【中技家】	力量に合わせた課題の選択	6 p
○	「繰り返しがセーフティネットに」とは？	
【小国】	複数の教材で学ぶ機会を保障する	7 p
【中美】	レベル分けした課題を複数回、選択させる	8 p
【小理】	作業的・体験的活動で実感を伴う理解を目指す	9 p
【小社】	判断・意思決定の場を複数回、設定する	10 p
○	「個々の感じ方の表現から始める」とは？	
【小図】	表現の理由を全体で共有する	11 p
【小家】	個の課題を全体の課題へ	12 p
【小体】	個が目指す動きを見える化・部分の動きに焦点化	13 p
【中音】	感受したことによってグループ編成	14 p
【中保体】	視点の転換により見方・考え方を広げる	15 p
○	「子ども同士の教育力を活用する」とは？	
【小社】	不完全な考えをみんなで補う	16 p
【中社】	視聴覚教材と学び合いを生かす	17 p
【中英】	グループ学習で成功体験を積み重ねる	18 p
III	子どもの反応に臨機応変に対応した指導	19 p
○	「子どもの思いを実現するため、計画を修正する」とは？	
【小生】	意識の変容に応じたグループ編成	20 p
【中国】	子どものアイデア・発想を生かす	21 p
○	「反応を教材化する助言」とは？	
【小音】	語彙の不足を補う身体表現を価値付けする	22 p
【中数】	比例の表、式、グラフの関連に目を向けさせる助言	23 p
IV	おわりに	24 p

I はじめに

本冊子は、「さぬきの授業 基礎・基本 ～子どもに学びのときめきを～」(平成 25 年 3 月 香川県教育委員会発行)のⅡに書かれている内容を小・中学校の授業で具現化した実践事例集です。

平成 26 年度は、香川県小学校教育研究会、香川県中学校教育研究会から合わせて 150 事例を提供いただき、本冊子では、その中から「個に応じた指導」をテーマに 19 事例を紹介しています。

どんなに素晴らしい指導技術を用いたとしても、目の前の子どもに合ったものでなければ、確かな学力の育成は実現できません。教材の特性や子どもの実態からつまずきを想定し、「目標」「内容」「方法」を吟味していくことが大切です。このプロセスが抜けてしまうと、膝をすりむいた子どもの額に湿布するような授業になってしまいます。子どもが変わっても授業が変わらないということにもなりかねません。

この難しいテーマに、香小・中研 18 部会がチャレンジし、事例を提供していただきました。

本冊子第Ⅱ章では、授業を行う前や授業の中で「子どもと教材を的確に把握する」ことをテーマに、15 事例を掲載しました。その中で、つまずきを想定した指導とはどのようなものか、繰り返しの場の設定が遅れて進む子どもにとってセーフティネットになるとはどのようなことか、個々の感じ方を表現させることから始めるとはどのようなことか、子ども同士の教育力を活用するとはどのようなことか、について具体的な事例で紹介しています。

また、本冊子第Ⅲ章では、授業の中で「子どもの反応に臨機応変に対応する」ことをテーマに、4 事例を掲載しています。子どもの思いを実現するため、計画を修正するとはどのようなことか、反応を教材化する助言とはどのようなものかを明らかにしている事例について紹介しています。

このように、豊富な事例から個に応じた指導を実現するに当たって、授業が始まる前にできることと授業の中でできることが明らかになってきました。

本冊子で紹介している事例や留意点をご覧ください。その基となる考え方を「さぬきの授業 基礎・基本」に求めたり、「さぬきの授業 基礎・基本」から「これは具体的にはどのようなことなのだろう」と問いをもって本冊子を開いていただいたり、合わせて日々の授業改善に役立てていただけることを願っています。

なお、本誌で紹介できなかった残りの事例については、県教育センターのホームページ (URL <http://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/>) に掲載していますので、ぜひご覧ください。

Ⅱ 子どもと教材を的確に把握した指導

「さめきの授業 基礎・基本」には、子どもと教材を的確に把握することについて、次のように述べています。

子どもと教材を的確に把握するために

- ☆ 子どもの実態を的確にとらえる
 - 子どもの興味・関心、理解状況、生活習慣や家庭生活の状況、能力や特性などを明らかにする
 - ・ 意識調査などを活用する
 - ・ 連絡帳や生活記録を活用する
 - ・ これまでの授業記録を活用する
 - ・ 日常の観察記録などを活用する
- ☆ 教材についての理解を深める
 - 捉えさせたい内容、効果的な出合わせ方、想定されるつまずき、可能な考え方などを明らかにする
 - ・ 学習指導要領の内容を確認する
 - ・ 具体的な子どもに当てはめて考える
 - ・ 驚きや疑問を引き出す導入を工夫する
 - ・ 多様な考え方を準備する
- ☆ 子どもと教材をよく知る
 - 職員間の情報交換を大切に、一人で抱え込まずにチームで実践する
- ☆ 授業前に計画的に取り組んでおけること
 - グループ活動を取り入れる
 - 子どもの状況に応じたヒントなど手立てを用意する
 - 少人数指導、TTなどの充実を図る

これを基にした実践では、次のようなことが明らかになってきました。

「つまずきを想定する」とは？

- 単元を通しての意識付けとヒントカードの活用
- 素朴概念の分析から教材開発
- 力量に合わせた課題の選択

「繰り返しがセーフティネットに」とは？

- 複数の教材で学ぶ機会を保障する
- 作業的・体験的活動で実感を伴う理解を
- レベル分けした課題を複数回、選択
- 判断・意思決定の場を複数回、設定

「個々の感じ方の表現から始める」とは？

- 表現の理由を全体で共有
- 個の課題を全体の課題へ
- 個が目指す動きを見える化・部分の動きに焦点化
- 感受したことによってグループ編成
- 視点の転換により見方・考え方を広げる

「子ども同士の教育力を活用する」とは？

- 不完全な考えをみんなで補う
- 視聴覚教材と学び合いを生かす
- グループ学習で成功体験を積み重ねる

次ページから、■の項目について、実践事例を紹介します。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「つまずきを想定する」とは？－単元を通しての意識付けとヒントカード－

小学校第1学年 算数 単元「ひきざん(2)」

1 本実践の目標

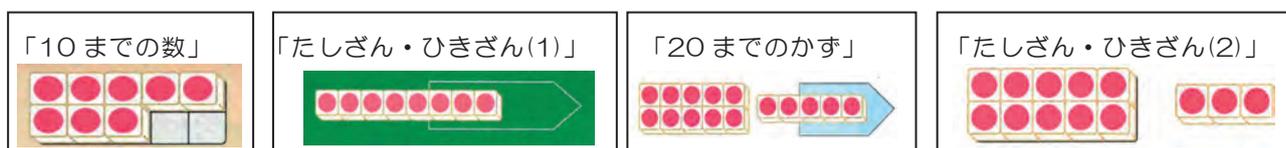
繰り下がりのあるひき算について、10のまとまりを意識して数図ブロックを操作し、計算方法を考え、減々法と減加法の違いに気付くことができる。

2 実践の概要

本単元での子どものつまずきとして考えられることは、①「10のまとまり」に着目できない②ブロック操作はできるが、操作をうまく言語化できないという2点である。そこで、学習問題を「13-9のけいさんのしかたをかんがえよう」とし、単元を通して「10のまとまり」を意識させる手立てや、ブロック操作を言語化するための手立てを行った。

3 手立ての具体

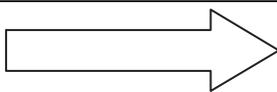
① 単元をみすえた「10のまとまり」を意識させる手立て



単元によってブロックの扱い方が様々で、どのようにブロックを操作してよいか分からない子どものために、「卵パック」を使うことで「10のまとまり」を意識させた。



【卵パック】



【10のまとまりを意識したブロック】

② 自分の操作を言語化するための手立て

ブロックを操作できても、操作方法をうまく説明できない子どものためにヒントカードを用意した。

まず、全員に操作方法がはっきりするように「どこから何個動かしたか分かるようにかきましょう。」と助言する。

次に、机間指導をしながら、うまく表現できていない子どもには、ヒントカードを渡した。「10のまとまり」「ばら」というキーワードは、板書に示しておいた。

うごかしかたのせつめい(減々法)

① から こ うごかす。

② から こ うごかす。

③のこりは

4 手立ての効果



【ペア交流の様子】

卵パックを使うことで「10のまとまり」をイメージしやすく、13個のブロックを並べるときにも全員が「10のまとまり」と「ばら」に分けて並べることができた。また、「10のまとまり」と「ばら」の色を分けて並べさせることで、操作方法も一目でよく分かり、評価にも生かすことができた。

ヒントカードを渡すことで、どの子もペアや全体交流で説明する時に自分の考えをブロックで操作したり図を指したりしながら言語化することができていた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

教科書のブロックの示し方や減加法・減々法の違い等をしっかりと教材研究して、子どものつまずきへの手立てを考えることが大切である。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「つまずきを想定する」とは？－素朴概念の分析から教材開発－

中学校第3学年 理科 単元「地球と宇宙」

1 本実践の目標

月の満ち欠けや見かけの位置の変化は、時間とともに変化し、恒星とは異なる変化であることを理解し、その理由を説明することができる。

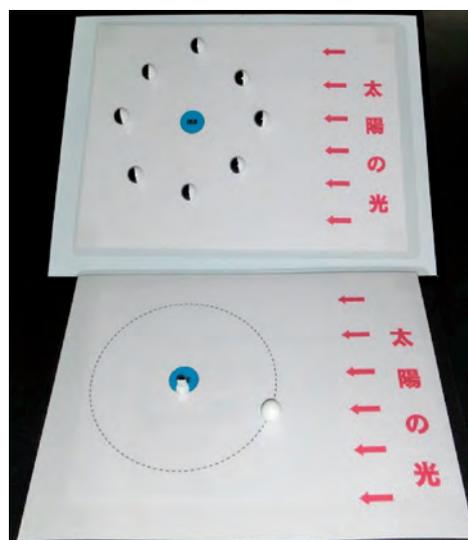
2 実践の概要

この単元では、素朴概念を事前に調査して、子どもの実態を把握した。これを分析し、子どもが視点を変えて観察できるモデルを開発・準備した。子どもが約2週間かけて毎日同時刻に観察し、記録した月の位置と形を基に、開発したモデルを用いて、月の位置と地球から見える月の形との関係を考えたり話し合ったりして解決する活動を設定した。

3 手立ての具体

具体的には、素朴概念の調査・分析から、視点移動が可能で地球や月などの天体を上から見下ろした角度で見ることができるモデルを「月の満ち欠け確認ボード」として開発し、活用した。

- ① 子どもが家庭で観察してきた結果を持ち寄り、月の見え方を発表させた。
- ② 観察した月の位置を、「月の満ち欠け確認ボード」を用いて、グループごとで話し合いをさせた。同じ時刻での位置の変化、見かけの形の変化を説明させるのに、各グループで月の模型の位置を変えながら、個々の意見を出させ、自由に使用させた。
- ③ 課題を解決させるヒントとして、既習知識である月の特徴を明示しておき、グループで話し合いをさせた。
- ④ 話し合いが滞っているグループには「月の満ち欠け確認ボード」の活用ヒントツール（視点の変更）を渡して、確認ボードを再度活用させ、話し合いが進むようにさせた。



【月の満ち欠け確認ボード】

4 手立ての効果



【月の満ち欠け確認ボードで考える様子】

ワークシート等の紙面では、2次元であることからなかなか納得できなかった本時の学習内容も、3次元で確認できる「月の満ち欠け確認ボード」を用いることで、実際に手でモデルの天体を動かすことができたり、視点の移動も容易になったりすることで、実感を伴った理解へとつながった。また、その後学習する惑星の見かけの変化も、シートを変えることで、月同様に活用することができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

小学校のときに、月の満ち欠けについて学習している内容や子どもが持っている素朴概念を踏まえた上で学習課題を設定すると、より身近な課題となる。そのために、素朴概念をきちんと把握し、教材の内容を吟味して、子どもがつまずきやすいポイントを意識して指導したり、つまずきを解決できる教材教具を開発したりすることが大切でしょう。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「つまずきを想定する」とは？ー力量に合わせた課題の選択ー

中学校第1学年 技術・家庭 単元「製作品の設計・製作」

1 本実践の目標

生活の中の課題に対し、子どもが自らの力量に応じた難易度で解決策を考え、作品の設計・製作に生かすことができる。

2 実践の概要

限られた授業時数で効率的に製品の設計・製作を行うとともに、難しい設計のため困難な作業となって意欲が低下することがあったため、**製作品の難易度に段階性**を設定した。

3 手立ての具体

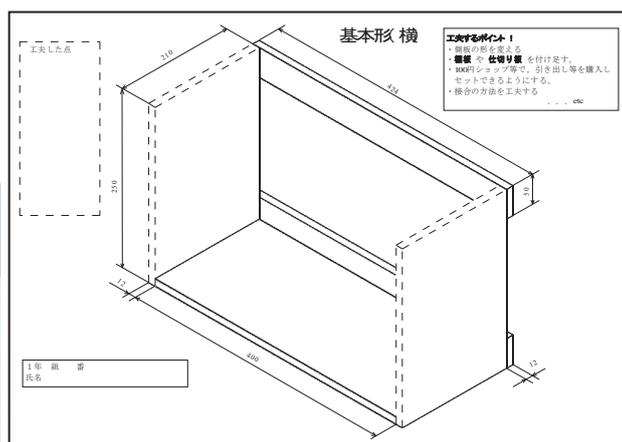
具体的には、次のように展開し、子どもの力量に応じた設計ができるようにした。

- ① **難しすぎる設計にならないように、等角図による製図やのこぎりびきの実技テストを得点化し、子どもが自分の技能を確認する振り返りの時間を設定した。**
- ② 各自の課題を考慮しながらも、ある範囲の大きさの中で設計することができるように**基本形を縦型・横型の2種類用意し、そこから設計をスタートさせた。**
- ③ **作品の難易度を4段階に設定し、どの段階をめざすか見通しを持たせた。**

難易度1・・・基本形の側板の形を変える
難易度2・・・棚板や仕切り板を入れる
難易度3・・・既存の製品をセットする
難易度4・・・完全自由設計



【難易度2の作品例】



【横型基本形の製図用紙】

- ④ **自由設計ができない子どもには、縦型・横型の基本形の製図用紙を配布し、破線部分を補ったり部品をかき足したりすることで手早く簡単に構想図がかけるように工夫した。また、自由設計のできる子どもには斜眼紙を渡して自由に構想図がかけるようにさせた。**

4 手立ての効果

自分の技能を振り返り、段階ごとの作品例を見ることで完成までの見通しをもって取り組むことができた。実現不可能な設計や安易すぎる設計が減ったため、失敗による意欲の低下も防ぐことができた。また、ポイントを絞り込むことで工夫を凝らした作品が増えた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

基本形を用意しているが、安易に縦型・横型を選ばせるのではなく、日常生活で使用する場面をイメージして大きさや形を決めさせることが不可欠である。また、子ども各自の力量を踏まえた設計ができることを目標としているが、自分の実力を過大評価している子どもに対して教師の見立てを押しつけすぎることは、子どもの意欲を低下させる原因にもなるため、子どもの設計を十分にチェックし、技能を考慮した適切なアドバイスができるようにしたい。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「繰り返しがセーフティネットに」とは？－複数の教材で学ぶ機会を保証－

小学校第6学年 国語

単元 資料の示し方や具体例の挙げ方を考えて町をよくする取組を伝える文章を書こう

(「資料を活用して書こう」「未来に生かす自然のエネルギー」の複合単元)

1 本実践の目標

目的に応じて選んだ資料や事例を効果的に活用して、自分の町のよさや課題を解決する方法を考えて文章に書くことができる。

2 実践の概要

単元を通して「資料を効果的に活用して伝えたいことを説明する」ことを意識させ、**教材文「未来に生かす自然のエネルギー」**、「資料を活用して書こう」を使って学んだ、**一貫性をもった主張とするための文章構成や資料選択の方法を自分の文章に生かして書く活動**を設定した。

3 手立ての具体

右のようなワークシートを活用し、子どもの意識を捉えるようにした。

- ① 子どもたちが必要感をもって学習に取り組めるように**総合的な学習とつないで単元を構成し、自分の町のよさや課題を伝えるという明確な課題意識をもって学習をスタートさせた。**
- ② 自分たちが調べたことを分かりやすく伝えるための方法として、**教材文「未来に生かす自然のエネルギー」から文章構成の工夫などを学ばせた。**
- ③ 図や表の効果的な活用について、**教材文「資料を活用して書こう」を使って、伝えたいことにふさわしい2つの資料を選び、そのつながりを説明する活動を設定した。**
- ④ 自分の町についての文章に生かすために情報を分類・整理させ、**図や資料が自分の伝えたいことの根拠となっているか、「現状」「課題」「解決策」はつながっているかという観点で構想メモを見直させ、文章を書かせた。**
- ⑤ 地域の方の前で一人一人がプレゼンテーションし、意見交換できる場を設定した。



【教材文での学びを自分の表現に生かすためのワークシート】

4 手立ての効果

主張に説得力をもたせるために、資料を選択し、実際に説明し合う活動を複数回設定したことで、主張と資料のつながり、資料と資料のつながりを考える力や資料を使うことの効果を子ども自身が認識できるようになってきた。さらに、友達の考えのよさに学んだり、自分の考えの根拠をより明らかにしたりすることができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

教材から学ぶ必要感や課題意識を明確にもたせることが大切である。また、子どもたちに力を付けるためには、思考場面を複数回設定することが有効だと考える。

子どもたちが飽きることなく、見通しをもって取り組めるような単元構成を工夫したい。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「繰り返しがセーフティネットに」とは？ーレベル分けした課題を複数回、選択ー

中学校第1学年 美術 題材「絵！文字のデザインをしよう」

1 本実践の目標

文字や言葉の意味を理解し、その文字のもつイメージを強調して絵で表現するなど、構成を工夫して、楽しみながら美しい絵文字をつくることができる。

2 実践の概要

単元を通して「漢字や文字からイメージを膨らませて絵文字をつくろう。」をテーマに作品のアイディアスケッチを行った。テーマを具現化するには、ことわざ、慣用句、熟語（四文字熟語）、流行語等の語彙力に加え、文字の一部からイラストをイメージする等の発想力が必要である。そこで、子どもが無理なくテーマを選べるようにレベル分けを行った。また、さまざまなパターンのイラストを見せることで、表現の幅を限定しないように資料を準備した。

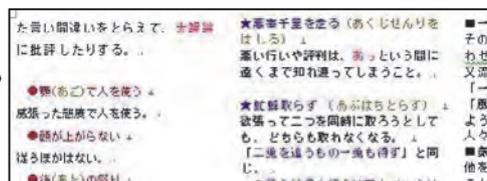
3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、子どもの意識を捉えるようにした。

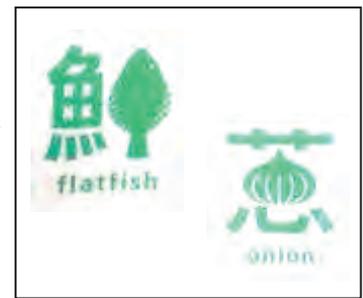
- ① 漢字の感じのレベルを4段階で説明する。説明した後に、ワークシートに一番簡単なレベル1を全員に練習で行う。「夏」のレタリングを行い、漢字一部分をイラストに変えて絵文字を完成させる。
- ② ワークシートのレベル2、レベル3に挑戦させる。テーマが思い浮かばない子どもには、**資料1を渡し表現できそうなことわざ、慣用句を選択**して制作するように促す。さらに難しい表現にチャレンジしたい子どもには、流行の言葉等をテーマとするよう促す。
- ③ 授業後、**ワークシートを回収しアイディアスケッチをチェック**し、それぞれのレベルのチェックを行い、次の授業までに配布する。
- ④ 子どものワークシートの一部を紹介し賞賛する。いったん返却し、**先輩の作品や日常にあふれる看板やプロの絵文字等を見せる**ことで、文字の形からイメージしたイラストや、角度を変えたイラスト表現を学ぶことができた。



【レベル分けしたワークシート】



【ことわざ、慣用句、四文字熟語の資料1】



【お店の紙袋の絵文字】

4 手立ての効果

熟語や慣用句、ことわざ等を表現の難しさによってレベル分けして提示したことにより、自分の実力に応じて無理なく最後まで作業に意欲的に取り組むことができた。また、日常生活にあふれる絵文字を知ることによって、関心をもって言葉の意味を調べるきっかけになった。さらに、文字の形がイラストの形に反映することが分かり、形からイメージする力が高まった。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子どもと教材を的確に把握するためには、子ども個人の能力に合わせ、付けたい力を明確にした教材が必要である。本実践を通して、練習させる場が複数回あると、子どもは自信を持って取り組める。また、レベルに応じた資料を提示することが大切である。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「繰り返しがセーフティネットに」とは？ー作業的・体験的活動で実感を伴う理解をー

小学校第3・4学年 理科 単元「昆虫を調べよう」・「物のあたたまり方」 「明かりをつけよう」

1 本実践の目標

理科で学んだことを身近なものを使って子ども自身で再現したり、生活につながっていることを実感したりすることで、興味・関心を高めることができる。

2 実践の概要

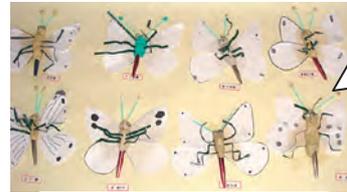
単元を通して、学んだことが本当に正しいのか、知識だけになっていないかを改めて確認し、体得させるために、**自分たちでものづくりをする活動**を設定した。

3 手立ての具体

具体的には、次のように展開した。また、一人で・グループで・全員での3つの方法から子どもの意識を捉えるようにした。

① 一人で

昆虫のからだは頭・むね・はらに分かれていることや触角やはね、あしの数や付く部分等、**細かいところまで注意して観察する力を育むために、ものづくりを通して自力解決させる。**作品としても残るため、一人一人の理解度を確認することもできる。



【手作りモンシロチョウ】

【材料】

粘土（頭・むね用）
キャップ（はら用）
糸ようじ（触覚用）
上質紙（はね用）
ワイヤ入りビニールひも（あし用）
スナップボタン（め用）
二重リング（口用）

② グループで

空気のあたたまり方を学び、**あたためられた空気は上へ移動するといったエネルギー的な考えを、気球の動きやごみ袋の中の空気のあたたかさを感じながら体験させる。**気球は4人1グループで作成させ、安全に気をつけて飛ばす。その際、火は教師がつけることと一人1枚ぬれぞうきんを持たせるようにし、安全には細心の注意を払う。無風の場合は戸外で行うことが望ましいが、本実践は天候悪く体育館で行った。



【熱気球を飛ばす様子】

【材料】

黒のごみ袋
銅針金0.28mm
コットン・細目のタコ糸
ホチキス・アルミカップ8号
メチルアルコール

③ 全員で

導線の代わりとして、ダイナミックにアルミホイルを1本まるごと使用し、全員で輪（回路）を作り持たせる。アルミホイルのいろいろな部分を**一部ちぎったり、再びつなげたりして、協力して明かりのつき方を実験し、確認させる。**



【全員で協力実験～明かりがつく瞬間を見守る様子～】

4 手立ての効果

一人1実験が常によいとは限らない。目の前の子どもの実態に合わせて、①のように身に付けさせたい力がはっきりしている場合は個人で活動させたことで、基礎・基本の定着が図れた。早くできた子には、ミニ先生としての役割も与えられた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

個人でさせるかグループでさせるかは難易度にもよるが、適切な材料を用意し教師の事前実験は必要。本実践を通して、理科の楽しさを感じたり、知識として定着させたりすることもできるが、学級の仲間作りにも効果的。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導
「繰り返しがセーフティネットに」とは？—判断・意思決定の場を複数回、設定する—

小学校第6学年 社会 単元「裁判員裁判を考える」

1 本実践の目標

国民が裁判に参加する意義を、選挙と同様に、国民の政治への関与の1つで、国民主権の考え方の1つであることを理解することができる。

2 実践の概要

単元を通して「もし、裁判員に選ばれたら進んで参加するか」をテーマに話し合い、**小單元ごとに判断・意思決定したり、裁判シミュレーションをしたりする活動**を設定した。

3 手立ての具体

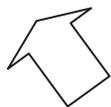
具体的には、次のように展開し、子どもの意識を捉えるようにした。

- ① 裁判員に選ばれたら進んで参加したいか否かを、「そう感じない」「どちらかというそう感じない」「どちらかというそう感じる」「そう感じる」の4つの内から選択し、**ネーム磁石で自分の立場を明確にさせる。**
- ② 「今日の判断ワークシート」に、参加したくない度と参加したい度の2つの気持ちをパーセンテージで表現させた上で、迷う気持ちを理由として言葉で表現させる。
- ③ 授業後、**座席表**にそれぞれの気持ちの変化を記録し、次の授業までに配布する。
- ④ 友達の変容を参考に、**ネーム磁石の位置を更新**していく。



もし、自分が将来、裁判員に選ばれたら、進んで参加したいか？

参加しない理由	今日の判断		参加する理由
	参加したくない度	参加したい度	
もしも、あとから戻して返しをされたらいやだから判断がする自信がないから。	80	20	少しは、みんなの役に立ちたいと思うから。自分で判断してみたいから。



「裁判員に選ばれたら、進んで参加したい？」過去4回の授業後の判断
○そう感じる ○どちらかと言えばそう感じる △どちらかと言えばそう感じない ×そう感じない



<p>△×○○○ で被告人の罪 を自分で 少しだけ の判断を してみたい。 5 から、あたっ かけてみて。</p>	<p>○○○○ 実際の裁判を知りたい、体験してみたい。自分ならどう考えたらプロの裁判官の判断に負けない。選ばれるのはほんの少しの人だからやってみよう。 うきやに対しての判断をして、判断は難しいと感じた。</p>	<p>◎◎◎◎ 参加する夢につながるかもしれない。アイデアを出してきて裁判に興味が出てきた。どきやを見て、5、6日ぐらしかかると思っていたが、2日で終わると分かった。人の命をうばうと死刑かちよう役になると分かった。</p>	<p>△○○○ 判、悪い、悪い、大切だと思っから、もしからしたら、自分も被告人と同じようなこととして自分を見つめ直せるから。 判決の準備をしてみ、分りにくいと思ったが、貴重な体験ができるし、自分を見つめ直せる。</p>	<p>○△○△ やってみて、裁判はどのようなものか確かめたい。少しだけ法律を覚えたいし、良心を増やしたいから。法律を知らなくても自分たちの常識で判断すればいいことが分かったから。 判断がすごく難しかったから。</p>	<p>××△△ めんどくさい。つまらない。いいすぎにいい。世の中にはいろいろな人がいるから。</p>
<p>△×○○ 判決を出し、裁判のことを知らなくても</p>	<p>△×○○ 人を殺してつらまられたりするかもしれない。知識がない。私たち国民の常識が本当に合っているかどうか分からないのに判断するのはよくないと思うから。</p>	<p>×◎○○ 人を殺すというのをはねられるかもしれないし、同じ人なのに違う人生を歩ませることになるから気が進まない。知識が確かならなければいけません。みんなが判断するのはいいけど、自分にはまだ難しい。</p>	<p>△××○ 証拠を揃えるのが大変。人を殺すというのは悪い。めんどくさい。分からない。あまりめんどくさくない。けっこう判じやすい。証拠が揃ってないから、判じにくい。</p>	<p>△次△○ 大変そうだけど楽しそうだから。理由を考えるのは大変だけど、5000人に1人に選ばれたのはすごいから。</p>	<p>△△△△ 被告人を有罪にしてつらまられたら嫌な気分。自分の意見を言えるから公開したいと分かったから。5000人の罪を分けてみる。</p>

4 手立ての効果

板書→ワークシート→座席表のサイクルを続けることにより、友達の変容に学んだり、自分の考えを見直すチャンスになったりした。また、参加したくない理由だけでなく、参加したい理由も書かせることで、判断に迷う微かな気持ちを表現させることができ、教師はより精緻に子どもの考えを捉えることができた。

当初、裁判は怖いと感じていた子どもたちは、正義を語ることの心地よさや自分も秩序を守る社会の一員である自覚を感じ始めていた。



【裁判員裁判のシミュレーション】

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子どもと教材を的確に把握するためには、選択を迫る判断場面やその根拠を表現する場面が必要。本実践を通して、その場面が複数回あるとその履歴の中に子どもの成長を見出せることが分かってきた。また、選択の場面は教師の恣意的な働きかけは慎むべき。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-1 子どもと教材を的確に把握した指導 「個々の感じ方の表現から始める」とは？－表現の理由を全体で共有－

小学校第1学年 図画工作 題材「いろいろぺったん」

1 本実践の目標

野菜版について、写すものの形の面白さに気づき、それぞれの形と色の組み合わせ方を考えることができる。

2 実践の概要

「色や形を選んで写すこと」を学習問題とし、野菜を縦や横に切った形を版にしていく。しかし、新しい表し方を見付けようとするのが苦手な子どももいる。そこで、**スタンプ遊びを行う中で、形や色の組み合わせ方の面白さを見付けていくような場を設定した。**

3 手立ての具体

まず野菜を縦や横に切ると大きさや形が変わることや、内側の模様がスタンプされて面白いことなどを経験させることで、もっと面白い形を見付けようという課題意識や意欲を高めるようにする。次に自由にスタンプ遊びをする中で色や形の組み合わせの面白さに気付けるよう、教師が例を取り上げ、よさを称賛し価値付ける。

〈 面白い色や形の組み合わせを見付けさせるための個別の言葉かけ 〉

Left drawing (①動き):
Child: ピーマンをぐるっとつながるようにぺったんしているね。どうしてこうしたの？
Teacher: 同じ形が続くのが面白かったからだよ。ピーマンの道だよ。
Child: 同じ形がぐるっと続いているから、先生は、なんだか他の何かに見えてきた
Teacher: そうだ、へびが動いているみたいに見える。他の形も続けて押してみよう。

Right drawing (②色の対比):
Child: 素敵な色だね。どうしてこの色にしたの？
Teacher: 黄色や赤は明るい色だからです。真ん中に明るい花を作りました。
Child: 周りの色は青や緑にして、似ていない色だね。だから、花が目立っているね。

【交流で見付けた工夫 ①動き】

【交流で見付けた工夫 ②色の対比】

見付けた面白さについて全体交流をすることで、色や形の組み合わせの工夫を理解し、自分の作品を高める手がかりとすることができる。

4 手立ての効果

子どもたちは、表現活動の中で様々な面白さを感じたり、見付けたりしていた。「なぜ、その形を続けて曲げて押したのか」、「なぜ、大きい形と小さい形を組み合わせたのか」ということや、「何を面白いと感じたか」等を子どもたちが自分の言葉で説明できるよう、声かけなどの個別支援をした。それを全体で取り上げ、色や形の見方や感じ方について共有することで、普段、表現することに苦手意識をもっているこどもも、それを手がかりにイメージを広げ、意欲的な活動ができていた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

全体交流をして互いに高め合おうとしても、1年生では自分の思いを上手に発言できないことが多い。子どもがどのようなことを伝えたいか見取り、色や形の視点で補足説明することで交流が深まる。また、子どもが気付いていない面白さを教師が見付けて取り上げることで、新しいよさの視点をもつことができる。そのようにして見付けた色や形の組み合わせの面白さをまとめて掲示しておく、他の領域でも生かすことができる。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「個々の感じ方の表現から始める」とは？一個の課題を全体の課題へ

小学校第6学年 家庭科 題材「見直そう食事と生活のリズム」

1 本実践の目標

毎日の生活を見直し、朝食の役割について話し合う活動を通して、食事の栄養バランスと健康な生活リズムの大切さについて考えることができる。

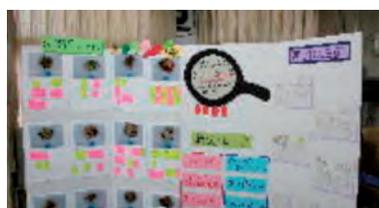
2 実践の概要

栄養のバランスについて学習したことを「自分の朝食」とつないで考える場を設定することで、**個の課題意識を高め、全体の学習課題づくりにつなぐようにする**。また、具体的な生活の場面を設定したグループ活動を取り入れることで、個が多様な生活場面に応じた実践への手がかりをつかめるようにする。

3 手立ての具体

具体的には次のように展開し、個の実態や変容を見取り、指導に生かせるようにした。

- ① **朝の時間の使い方や朝食についての経験や思いについて全体で話し合ったり、「朝ご飯日記」を継続してつけたりする**ことで、個が自分の課題をもてるようにした。
- ② **個の課題を報告し合い、話し合っ**て、朝食の条件（簡単・速い・栄養バランス・好みなど）を整理し、**全体の学習課題づくりにつないだ**。
- ③ 活動ごとに、課題に対して「**振り返りカード**」での記述を継続して行い、自分の変容や成長に気付けるようにした。
- ④ 題材の終末では、家庭の冷蔵庫を想定し、限定された材料で朝食メニューを作ろうという**シミュレーション活動**を取り入れた。その際、「**材料は〇〇と〇〇だけ**」「**時間は〇分**」等、**子どもにとっての「壁」を意図的に取り入れ、グループで協力せざるを得ない状況を作った**。学んだことを実際の生活で生かせるという見通しや自信がもてるようにした。



【個々の考えを共有するための掲示】



栄養素ごとに分けられた黒板の「冷蔵庫」から順番に材料をもらえるよ。



今ある材料だけでできそう。休みの日に作れそう。



〇〇を作りたいけど材料が足りないな。

4 手立ての効果

【朝食づくりのシミュレーション】

題材を通して継続した「朝ご飯日記」や「振り返りカード」は、子どもが自分の生活を見つめ直し、課題意識をもつことにつながるだけでなく、自分の変容を実感したり実践への手がかりとなったりした。また、教師も個の変容やつまずきを把握することができ、個への支援や次の活動の指導に生かすことができた。さらに、学んだ栄養の知識を生かす方法について、グループで話し合いながら課題を解決することができ、「普段家にある材料で、自分でも栄養バランスのとれたおいしい朝食が作れそう。」等の自信と実践への見通しや意欲化につながった。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

学習指導要領の内容を確認し、この題材で、また、本時で子どもに何を学ばせたいかを教師がはっきりと持ち、話し合い活動等での表現をどのように見取り、評価していくかを計画して指導することが大切である。また、子どもの家庭生活は多様であるので、プライバシーにも配慮しながら、個の経験や考え、変容等を全体での話し合いにどう生かせるかを考えることが必要である。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「個々の感じ方の表現から始める」とは？ — 一個が目指す動きを見える化・部分の動きに焦点化 —

小学校第2学年 体育 単元「〇〇小オリンピック - 跳び箱を使った運動遊び -」

1 本実践の目標

跳び箱を使ったいろいろな場での遊びを通して、前時行った跳び箱を跳び越す動き方よりも、もっと楽しく跳び箱を越す動き方を選ぶことができる。

2 実践の概要

どんなふうに跳び箱を跳ぶと楽しくできるのか、ペープサートを自由に動かしながら、自分が跳びたい動きを見つけていった。子どもたちは、跳び箱を跳び越す一連の動きの中のどこで、どんな動きができそうなのか考える部分を絞ることで、自分のイメージする動きを多様に表出することができた。

3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、子どもの意識を捉えるようにした。

① 自分の動きを表出するために

子どもたちが、跳び箱を跳び越す動きをいろいろと見つけることができるようにするために、跳び箱の挿絵の上でペープサートを自由に動かし、自分の理想の動きを見つけていった。

② 部分の動きに着目するために

跳び箱を越す一連の動きには、助走、踏み切り、跳び上がり、跳び下り、着地とたくさんの動きがある。そこで、跳び箱を越す一連の動きをいくつかの部分に分け、その部分の動きを ICT 機器の動画を用いて視覚的に捉えられるようにした。そこから、知りたい部分の動きを選び、何度も見ることによって回転、距離、高さ等を変えるための動き方の違いに気付かせ、自分の動きに取り入れられるようにした。

③ 友達のよい動きをみつけるために

それぞれの場で自分の動きを試した後、違う動きを行っている友達とペアになって交流活動を設定した。動きを紹介する者は、自分の動きのイメージをペアの友達に「私は、鳥みたいに高く跳ぶために踏み切りを強くするから見てください」と自分のお気に入りポイントを具体的に伝えるようにした。(着眼点の焦点化)。こうすることで、動きを紹介する者は自分が工夫する動きをより強く意識付けることができた。



【ペープサートを用いて】



【部分の動きを捉えるために】

4 手立ての効果

子どもたちは、「遠く跳ぶには、膝をぐっと曲げていたよ」と体の動かし方を捉え、自分の跳び方を工夫することができた。また、お互いの動きを見ながら、「膝が曲がって高く跳んでいたよ」と動き方のよさを伝えながら、次に自分がチャレンジしたい動きにつなげていくことができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

友達の動きのよいところを見付けたり、まねたりしている子どもをしっかりと褒めたりして、自分の動きにしたいと意欲を高めていくことが大切である。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「個々の感じ方の表現から始める」とは？—感受したことによってグループ編成—

中学校第2学年 音楽（器楽）「こだまの合方」の演奏を工夫しよう

1 本実践の目標

日本の伝統芸能や音楽のすばらしさに気付くとともに、三味線の独特な音色や響きを味わうことで、基本的な奏法を取得することができる。

2 実践の概要

「こだまの合方」の場면을視聴して感受したことをもとにグループを編成し、自分たちの表現したいイメージを明確にし、お互いの意見を言葉や音で交流する活動を設定した。そして、グループで工夫した表現をお互いに発表し合うことで、それぞれの表現を味わい、三味線の基本的な奏法を身に付けながら、表現の工夫に挑戦した。

3 手立ての具体

具体的には、次のように展開し、子どもの意識を捉えるようにした。

- ① 三味線の基本的な奏法を身に付けさせるために、導入部分では、2人1組で交互に演奏し、お互いに姿勢やバチの持ち方、さばき方などを確認させた。
- ② 「こだまの合方」の場면을視聴し、それぞれが感受したことをもとに「謝罪」「思いやり」「弁慶の心」「感謝」「助けたい思い」「安心」「富樫の優しさ」のグループを編成し、それぞれがもったイメージをどのように三味線で表現するか工夫させた。
- ③ ②で話し合ったことをもとに自分たちの表現に近づけるために、実際に三味線を演奏し、音色を確認して修正しながら、強弱や速度の変化、「スクイ」「ハジキ」などの奏法を工夫させた。
- ④ グループの発表から、それぞれの表現の違いを聞き取らせ、思いや意図を様々な表現によって伝えることができることを感じ取らせた。



【活動の様子】

4 手立ての効果

三味線の基本的な奏法を学ぶことを目的に「こだまの合方」を演奏したときには、「弦を押さえる指の動きがぎこちなくて難しかった。」「ひととおり演奏できたが完璧ではない。」など技術的なことで難しさを感じる感想が多かった。しかし、感受したイメージが共通するメンバーでグループ分け→イメージに合った表現を工夫するために音と言葉を用いて交流→グループごとに発表→他のグループの多様な表現を聴いてさらに自分のグループで工夫という流れで、「こだまの合方」を演奏する中で、子どもの気持ちに変化が見られた。「主人と仕える人の情がすごい。弁慶があやまってしみじみとした感じを表現したい。」「その時その時の役者の気持ちに合わせて強さなどを変えたらいい」など主体的に表現してみようという意欲が生まれ、技術的に難しい所も克服していこうという前向きな気持ちによって、演奏技術が向上していった。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

適切な教材の選択と協同的な学びの場を繰り返し設定していくことが、思いや意図をもって表現しようとする子どもを育てていくことにつながる。子どもの技術と思いにギャップがあり、表現しきれないところは教師が思いをくみ取ることも必要。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「個々の感じ方の表現から始める」とは？－視点の転換により見方・考え方を広げる－

中学校第1学年 保健体育 単元「運動やスポーツへの多様なかかわり方」

1 本実践の目標

運動やスポーツの多様なかかわり方を考え、これからのスポーツライフについて深く考えることができる。

2 実践の概要

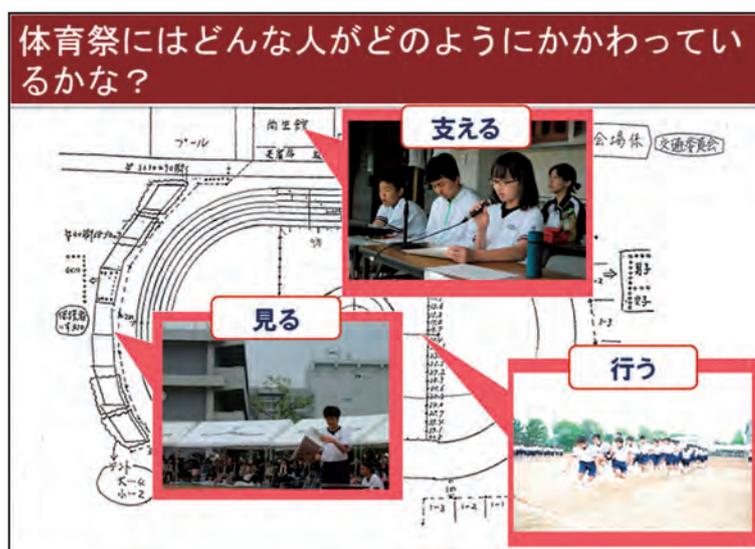
子どもたちの実生活と教材を深く結び付けるために、体育祭の会場図から、運動やスポーツに関わっている人たちを考えさせた。子どもたちは、運動やスポーツのかかわり方について、「どのようにするか」を考えることは多い。ここでは、あえて「見ること」「支えること」に焦点をあて、今後の体育学習への取組や、運動やスポーツの親しみ方の変容をねらった。「見ること」については、どのように「見る」かだけでなく、見る人を引きつけるスタジアムの工夫やスポーツを見る視点を取り上げた。「支えること」については、自分たちの周りで支えてくれている人たちを取り上げた。

3 手立ての工夫

① 体育祭の会場図から運動やスポーツには「する」だけでなく「見る」「支える」かかわり方があることに気付かせた。

② 「見ること」については、見る側の立場からだけでなく、見る人を引きつけるスタジアムの工夫や特徴など見せる側の立場から、グループで運動やスポーツを見る楽しさや魅力を考えさせた。

③ 子どもたち自身が普段運動やスポーツを見るときに、どんなところを見ているかを振り返らせ、意見を交流することによって、運動やスポーツの見方を広げた。



【導入場面で取り上げた体育祭会場図】

④ 「支えること」については、実際に支えている人たちを取り上げるだけでなく、自分のスポーツライフや体育学習を支えている人たちを考えさせた。

4 手立ての効果

自分自身が興味のあるスポーツから意見を出させた結果、活発な意見交流が生まれた。また、スタジアムの工夫やスポーツを見るときにどこを見ているかを考えさせることで、新たなスポーツの見方に気付き、「次見るときはここを見たい！」という意見が多く出た。さらに、自分たちの運動やスポーツライフを支えてくれている人を考えさせたことで、普段の体育授業へと意見が広がり、実践以降の体育授業で進んでアドバイスや補助を行う子どもが見られた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子どもたちの一人ひとりの実生活と教材が結びつくことで、考えやすくなったり意見が出やすくなったりします。体育理論では、身に付けさせたい内容をどのような教材で学習させるかを教師が深く考えることで、子どもの学びは広がります。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導
「子ども同士の教育力を活用する」とは？—不完全な考えをみんなで補う—

小学校第6学年 社会 単元「一所懸命に生きた武士-封建制度の変遷-」

1 本実践の目標

元寇により鎌倉幕府は全国にその勢力を広げ、幕府の中核である北条氏も支配地を拡大したにもかかわらず鎌倉幕府が滅亡した理由を、元寇後の北条氏と武士との関係を図に表すことで理解することができる。

2 実践の概要

単元を通して、子どもたちに**支配者と被支配者、朝廷と幕府の関係を図にかかせ、その図をもとにして話し合わせる場を繰り返し設定した。**

3 手立ての具体

具体的には、**次のような手順で支配者と被支配者を関係図に表し、鎌倉幕府が滅びた理由を考えさせた。**



【前時までに作成した関係図】



【自分の力で関係図を作成】



【ノートでデジカメで撮影】



【図を全体で吟味】



【カードで板書に整理】

【大画面に映して全体に説明】



【1つの関係図に集約】

あえて、不完全な考えから順に取り上げていくことで、全体に「自分の意見を付けたそう」という意識が生まれるとともに、矢印1つの意味についても吟味し、共有することができる。

4 手立ての効果

上記のようなサイクルを続けることにより、互いの考えを視覚的に捉えることができ、1つの考えに集約するプロセスを全体で共有することができた。また、自分の関係図と比較することで自分の考えを見直すことができた。さらに、幕府と御家人の主従関係だけではなく、捉えにくい幕府と朝廷の関係も含め、幕府が滅びた理由を理解することができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子どもと教材を的確に把握するためには、子どもの考えをいかに表出させその考えを全体で共有化するかが重要である。そのために、視覚化しやすい関係図に表現させることが効果的である。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「子ども同士の教育力を活用する」とは？－視聴覚教材と学び合いを生かす－

中学校第3学年 社会（公民的分野） 単元「国家と国際社会」

1 本実践の目標

主権国家の条件と国家間相互の主権尊重や国際協力の必要性を理解するとともに、その学習をもとに「北方領土問題」に対して、客観的立場で解決に向けた考えを自分の言葉でまとめることができる。

2 実践の概要

学習課題「北方領土問題の解決に必要な要素は何だろう」を掲げ、どの子どもに対しても学習意欲の向上と学習内容の深化を図るために、学習展開の中で**視聴覚資料と学び合い活動を適切に設定する**授業を実践した。

3 手立ての具体

① 視聴覚資料の効果的な利用

・「みんなで考えよう北方領土」（北方領土問題対策協議会制作DVD）の利用

択捉島の自然環境など、**教師の説明だけでは抽象的になりがち**な学習の部分で活用した。その際、現島民の衣食住・産業など、観点ごとにワークシートに記入させるようにした。

・現地で撮影した写真やビデオ、インタビューの活用

【択捉島の写真】

写真やビデオ、ホームビジット等での録音を、学習資料として子どもに提供することで、**自ら赴いて見たり聞いたりしているような学習ができる工夫**を行った。

② 「学び合い活動」の積極的な導入

・資料の分析・調査の場面

個人差が生じやすい資料を利用した課題解決学習において、グループ活動を積極的に取り入れ、資料を見るポイントの指摘や分析内容の相互確認を図り、**学習の遅れがちな子どもを他の子どもが教える「学び合い」を大切に**した学習を展開した。

・課題解決をめざした私の意見の発表の場面

【私は提言する！ ～北方領土の解決をめざして～】

旧島民・現島民それぞれ語る人の心情を考えさせ、「その葛藤の中で公正と効率の観点からどう合意に結びつけるべきか」という発問をすることで**思考の流れを明確にし、自分の意見をまとめやすい助言**を行った。また、自分の考えに自信がない子どもも意見発表がしやすいように、**小グループでの発表の機会**を設けた。

元島民にとっても現島民にとっても「ふるさと」である北方領土を、どちらの国が奪った、追い出されては絶対いけない。国は違っても、日本人もロシア人も同じ人。言葉は違っても交流することはできる。どちらの国も北方領土に住み、協力し合い、生活していくことが大切だ。
【ワークシート的一部分】

4 手立ての効果

映像や写真で示された択捉島の様子は、子どもにとってリアリティあふれる資料提示となり、子どもの興味・関心を高め、学習意欲の向上につながった。

領土問題の解決には、歴史的背景や主権国家同士の施策、双方国民の意識や思いなど、客観的に広い視野で考えなければならない要素がたくさんある。そこで、それぞれの視点で考えられる資料を順序よく示して考えさせ、小グループでの意見交換を積み重ねることで、自分なりの意見として文章に表現することができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

学習課題の解決のために子どもが必要とする資料が何であるかを十分吟味しておく必要がある。また、資料過多にならず、かつ子どもの意表をつく資料が提示できるとなお効果的である。また、「学び合い活動」では、学習を苦手とする子どもが一方向的に助言されるばかりでなく、自由な発想や意見を述べられる場を設けることが必要である。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもと教材を的確に把握した指導 「子ども同士の教育力を活用する」とは？ーグループ学習で成功体験を積み重ねるー

中学校第2学年 英語 単元「Program 9 A Priest in a Mask」

1 本実践の目標（習熟度別少人数指導：ベーシックコース）

「比較級、最上級、as～as」を用いた英文に英語で答えることができる。

2 実践の概要

- 学習課題：「比較級、最上級、as～as」を用いた文を聞いてクイズに答えよう。」
- 主な手立て：**成功体験の場の設定、見させる・聞かせる指導**、基礎・基本の定着の工夫
- 子どもの実態
歌やゲーム等の楽しい活動には興味を示し、人間関係は良好で、教室の雰囲気は明るい。しかし、初歩的な単語の読み書きの段階でつまづいている子どももあり、個に応じた指導が必要である。

3 手立ての具体

① **成功体験の場の設定**

- ・ 全員が発表できる機会を多く設け、「英語が使えた」という成功体験を繰り返し味わわせ、称賛の言葉かけをするなど、みんなで認め合う雰囲気作りに努めた。
- ・ ペアや3人、6人と複数で協力して活動させ、自信をもって発言できるようにした。
- ・ クイズにゲーム的な要素を含ませ、教師や友だちと競い合っ
楽しめるようにした。

② **「見させる・聞かせる」工夫**

- ・ 身近で意外性のある絵や写真を提示し、興味・関心を高めた。
- ・ クイズでは、英語を聞き考える→パワーポイントを用いて画像を見る→英文を見せて文の構成を確認する、という流れで進め、子どもの理解を視覚的に支援した。
- ・ 授業に集中できるように「動」と「静」のメリハリのある活動を用意し、授業の構成を工夫した。

③ 基礎・基本の定着を図るための工夫

- ・ パワーポイントや掲示物は、配色や構図等にルールを設けて提示し、基本文型の理解を助けた。
- ・ 重要なパワーポイントの画面を掲示物として残し、子どもの理解を高めた。
- ・ まとめとして、クイズを使った表現をワークシートに書かせ、文字を通して学習したことを確認させた。

4 手立ての効果

ゲーム感覚でペアやグループで友だちと協力して活動することで、楽しい雰囲気の中で恥ずかしがらずに英語を使うことができた。また、視覚教材や授業の構成を工夫することで、集中して「見る・聞く」という意欲的な態度が見られた。



Q 10  

Who is **the tallest** teacher in our school ?
(一番背が高い)

 **Mr. Tanoue is**
(the tallest teacher).

【クイズの一例】

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

英語が苦手な子どもから「これならできる」「ここは分かった」「楽しかった」などの声が聞けたとき、手応えを感じる。子どもの何気ないつぶやきや変容こそ真の評価と捉えたい。

Ⅲ 「子どもの反応に臨機応変に対応した指導」実践事例

また、「さぬきの授業 基礎・基本」には、「子どもの反応に臨機応変に対応した指導」について、次のように述べられています。

臨機応変な対応のために

- ☆ 机間指導などで子どもの状況をよく見ることを通して
 - 適切な助言（どこを見るのか、何をするのかなど）をする
 - 内容の理解が進んでいない場合は、再度繰り返し指導する
 - 理解できている場合には、発展的・応用的な内容へ指導を進める

このことを基に、机間指導に限らず子どもの反応に臨機応変に対応することに試みた実践から、次のようなことが明らかになってきました。

「子どもの思いを実現するため、計画を修正する」とは？

授業の中で、子どもの願いや思いを実現することができれば、教師の「教えねばならぬ」ことを子どもの「学びたいこと」に変換することができます。そのためには、例えば次のような柔軟な対応が有効です。

- 子どもの意識の変容に応じたグループ編成
- 子どものアイデア・発想を生かす

「反応を教材化する助言」とは？

反応を教材化するとは、例えば子どものある1つの発言を巡って全体で検討し、その発言から学ぶことを意味しています。子どもの認識の外側にある情報について検討するのではなく、「もともと知は子どもの中にある」という考え方で授業を進めていきます。あえて誤答を取り上げ検討することも反応を教材化していると言えるでしょう。学習対象との関係を見出せずやる気をなくしている子どもにとっては、身近な友達の発言が学習対象となることによって、考えてみようというきっかけになります。

- 語彙の不足を補う身体表現を価値付け
- 相互の関連に目を向けさせる助言

次ページから、■の項目について、実践事例を紹介します。

さめきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもの反応に臨機応変に対応した指導 「子どもの思いを実現するための計画修正」とは？

—意識の変容に応じたグループ編成—

小学校1学年 生活科 単元「がっこうものしりはかせになろう」

1 本実践の目標

友だちと一緒に校舎内や校庭を歩いたり、気付いたことを交流したりすることを通して、学校の施設や学校生活を支えている人々のことが分かり、自分たちの学校に愛着をもちながら楽しく学校生活を送ることができる。

2 実践の概要

単元を通して、**子どもの「思いや願い」に沿った探検を設定**した。「がっこうものしりはかせになろう」というめあてのもと、気付いたことをクイズにしたり、見付けたことをお知らせしたりしながら学校とのかかわりが発展していった。

3 手立ての具体

学校探検は計4回行った。探検場所は教師で計画しておいたが、**探検のグループは子どもの実態に応じてその都度変えていった。**

1回目 一人で探検に行くのは不安だという反応だったので、**ペア学年の4年生と2人で**、学校探検を行った。

2回目 「もう一度行ってみたい」という思いや願いをそれぞれの子どもがもつようになったので、同じ場所に**行きたい者同士でグループをつくって**、学校探検を行った。

3回目 探検場所への意識から、「先生に会ってみたい」という思いや願いをもつようになったので、**同じ先生に会いたい者同士でグループをつくって**、学校探検を行った。

4回目 場所や先生に慣れ、「自分の気になることを自分で探検したい」という思いや願いをもつようになったので、**一人で**学校探検を行った。

1回目

2回目

3回目

4回目



【ただ様子をながめる】



【積極的にものに関わる】



【ひとにかかわる】



【自分の思いで探検に行く】

4回目の探検も人に会いに行くよう計画していたが、子どもによって、「思い」は多様に発展していた。そこで、子どもの「思い」に合わせて、「場所」「人」と分けずに、自分らしさを発揮して探検できるようにすることで、子どもたちは意欲的に探検した。

4 手立ての効果

探検を繰り返すと、はじめは教室を傍観するだけであったが、次第に「もの」を触ったり聞いたり感じたりするようになった。そして、「ひと」に関わると、「〇〇教室の△△先生」のように、学校のどの教室とどの教師が関係しているのかに気付いていった。はじめは一つ一つの気付きであったものが、関連付けられるようになったのである。そして、教師とも繰り返し関わることによって、大きな声であいさつができるようになったり、親しみをもって話しかけられるようになったりし、学校での生活の様子に変化が見られるようになった。最終的には一人で探検に行くようになり、休み時間も意欲的に探検に出かけた。探検を積み重ねるごとに子どもたちの表情が生き生きとした。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

生活科では、子どもの思いや願い、知りたいと思うことが実現するように柔軟に対応することが大切である。対象と適切なタイミングで出合わせたり、出会いによる喜びや希望をふくらませたりすることが教師の役割である。それには、子ども一人ひとりの思いや願いをしっかりと把握できるよう、日頃からのかかわりと子ども理解が重要である。

さめきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもの反応に臨機応変に対応した指導 「反応を教材化する助言」とは？ ー子どものアイデア・発想を生かすー

中学校第2学年 国語 教材「プレゼンテーションをする」

1 本実践の目標

グループ・ブックトークをする中で、子どもそれぞれの興味を生かしながら、印象に残る説明の仕方やプレゼンテーションの方法を理解することができる。

2 実践の概要

共通のテーマに沿って紹介したい本をグループでプレゼンテーションする。聞き手に興味をもって聞いてもらうために、説明の仕方や話のつなぎ方、資料の提示の方法などをどう工夫すればよいかについて、話し合う活動を設定した。

3 手立ての具体

① 夏休み等を利用して読んだ本の中から紹介したい本を数冊リストアップさせ、ブックトークのテーマにできそうな言葉（友情・挑戦など）をワークシートにできるだけ多く書かせる。共通のテーマを選んだ者同士3～5人で集まる。テーマの語句がうまく出せないときは、読書記録用紙の「おすすめポイント」の言葉を参考にさせたり、テーマの言葉の広げ方（例：野球→スポーツ→青春）を示したりする。

夏休みの読書記録		テーマをグループで考える		
書名	いのちのバスター	約束	愛情	友情
著者	青木 和雄	奇跡	動物	家族
出版社	講談社	成長	命	
感想	この物語は少年の冒険成長の物語。いのちをかけて争うという、友情がなくなる、1人が死ななければいけぬ。自分と死んでいくのさ、めげは、大抵の体と心で死んでいく。これもいい本。	仲間	生きる	いじめ
おすすめポイント	自分自身として生きる。相手の立場に立って考える。			

【リストからブックトークの「テーマ」を考える】

② 選んだ本について、何をどのような順序で、どのように伝えればよいか話し合う。自分の選んだ本について言いたいことを示し、前の人の紹介内容や後の人とのつながりを考える。グループで一つのまとまりを意識させる。紹介する本が小説に偏る時には、テーマに合った絵本や非文学の本を薦める、紹介する本の順番を変える等のアドバイスを与える。

書名	著者名	紹介の工夫 (装飾提示・朗読・その他)
テーマとの関連		
前とのつながり		
内容メモ		

【ブックトークメモ】

③ 聞き手に興味をもってもらうための発表の工夫を考える。言葉で説明するだけでなく、朗読や寸劇にする、BGMを流す等の助言を与える。発表原稿を作るときは、話す内容を全部書くのではなく、メモ程度にし、「読む」より「語る」ことに気を付けさせる。

④ 発表を行う。ワークシートに感想を記入し、交流する。互いの発表の工夫を認め合ったり、興味をもった本について書き留めたりして、次への意欲化を図る。



【人形劇を取り入れたブックトークの発表】

4 手立ての効果

共通のテーマのもと、自分の選んだ本の紹介だけでなく、つなぐ言葉を考える必要性から、他の人が伝えたいことを自分のこととして考えたり、ブックトーク全体のまとまりを全員で工夫しようとしたりすることができた。また、グループ活動の中で互いの個性の違いを発揮しながら、プレゼンテーションを身近な活動に感じながら意欲的に取り組んでいた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

子ども1人1人の興味を生かすためには、教師の意見の押しつけにならないよう、子どもがやりたいこと、困っていることなどをしっかり話させることが大切である。その上で、順番を変える、BGM・朗読を入れるなどの工夫のヒントを具体的に与えるようにすると、子どもの発想が広がっていくようになる。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもの反応に臨機応変に対応した指導 「反応を教材化する助言」とは？—語彙の不足を補う身体表現を価値付け—

小学校第1学年 音楽 題材「わらべうたに親しもう」

1 本実践の目標

楽曲「ひらいた ひらいた」の歌詞の内容を理解して、友達といっしょにハスの花になって、体で表現し、わらべうたに親しむことができる。

2 実践の概要

グループの友達とコミュニケーションを深めながら、ハスの花になって、実際に開いたり、つぼんだりしながら歌うことで、**歌詞に親しみながら表現する活動**を設定した。

3 手立ての具体

具体的には、次のように展開した。

- ① 前時に、ハスの花の写真を見せ、折り紙でハスの花を折らせる。
- ② 子どもたちが野原で見たことのある「れんげの花」と教科書にある「れんげの花」の写真を見せ、本題材のれんげは、ハスの花であることを説明する。
- ③ 音楽に合わせて歌ったり、体を動かしたりすることによって、花が開いたり、つぼんだりする様子をグループごとに話し合いをさせる。
- ④ グループごとに発表し、グループごとに工夫したところを教師が補足説明し、改めてグループのポイントを教師が確認したり、取り出したりして、全員で発表したグループのハスの花を表現させる。



【ハスの花が開いた様子を表現する子どもたち】



【ハスの花がしぼんだ様子を表現する子どもたち】

4 手立ての効果

ハスの花を写真を見せたり、折り紙で折らせたりしたことで、子どもたちがハスの花のイメージをもち、グループの友達とどのように身体表現するかを話し合いながら、歌詞に合った歌い方を工夫することができた。また、他のグループの身体表現をさせてみることで、多様な表現の仕方を発見しながら、楽しくわらべうたに親しむことができた。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

グループの結果のみを発表するだけの発表会は、低学年の子どもは飽きてしまうことがある。そこで、一つのグループ発表が終わったら、そのグループのよいところを教師が解説したり、工夫をしたことを広げたり、補足したりして全員でまねっこをし、他のグループのよいところを体感するとよい。

さぬきの授業 基礎・基本Ⅱ-3 子どもの反応に臨機応変に対応した指導 「反応を教材化する助言」とは？

－比例の表、式、グラフの関連に目を向けさせる助言－

中学校第1学年 数学 単元「関数」

1 本実践の目標

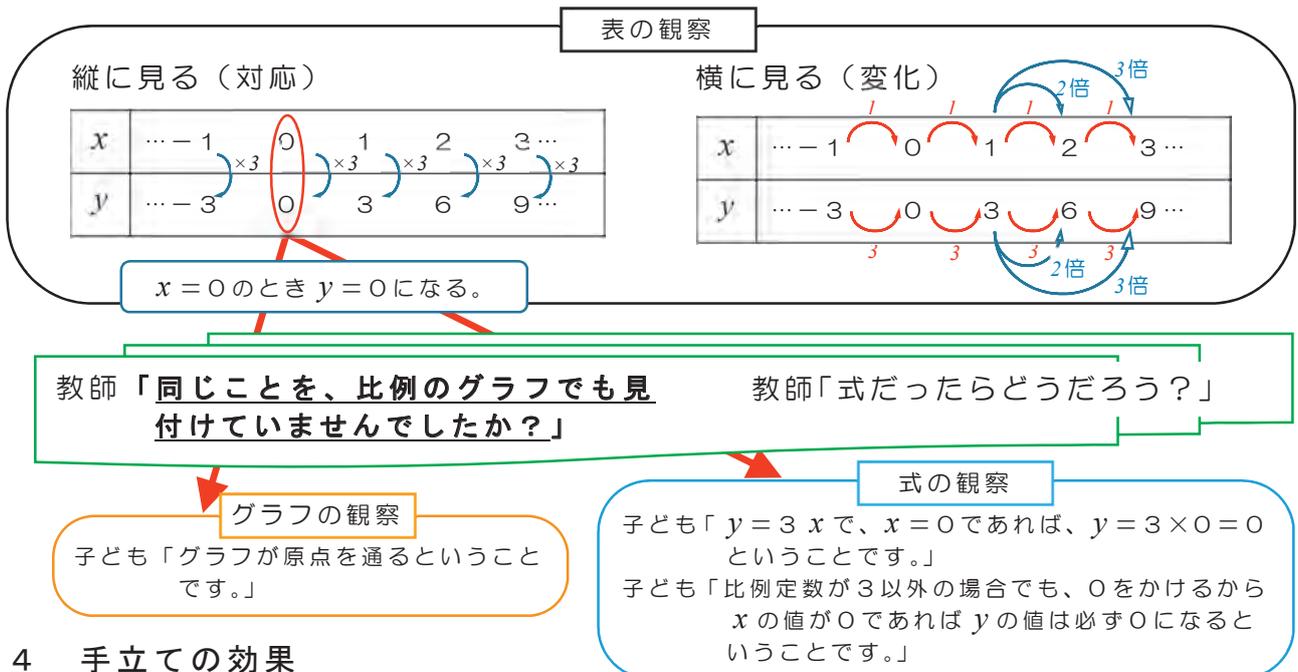
比例について、表、式、グラフの特徴をつかむとともに、その相互関係をとらえることができる。

2 実践の概要

学習課題を「比例の表、式、グラフそれぞれの特徴にどのような関連があるか考えてみよう」とした。表、式、グラフの相互関係の理解に課題が見られることは、全国学力・学習状況調査で継続的に指摘されていることである。そこで、前時までに学習した比例の表、式、グラフの**特徴を振り返って書き出した後、関連するものを線で結び、その理由を自分なりに説明し伝え合う活動**を取り入れた。

3 手立ての具体

(例) 比例の表で「 $x=0$ のとき $y=0$ になる」ことを、グラフや式の特徴と関連付ける。



4 手立ての効果

問題場面や説明の目的に応じて表、式、グラフを使い分ける子どもが増えたことや、学力調査や定期試験の結果から、表、式、グラフの関連を考察する時間を意図的に設定したことは、比例の意味を表、式、グラフを通して一体的に理解させる上で効果的であった。

5 若い先生のためのワンポイントアドバイス

比例を表、式、グラフを用いて表すとき、これらを並列的に扱ったり、別々のものとして扱ったりするのではなく、これらの表し方を相互に関連付け、一体となって理解できるようにする必要がある。また、比例に限らず、反比例や一次関数などについても、表、式、グラフの特徴を関連付けたり、それぞれの関数の特徴を対比させて共通点と相違点をまとめたりする活動を取り入れることは、それぞれの関数の意味理解を深めるとともに、表の見方など関係のとらえ方そのものの理解を深めることにもつながる。

一方で、子どもの意欲を引き出すために、間違いを嘲笑しないことなど、支持的な雰囲気を作ることを心がけるとともに、教師自身の言動にも注意を払い、子どもの多様な考え方を認める姿勢を子どもに示すことが大切である。

IV おわりに

子ども一人一人に応じたきめ細やかな指導を行うためには、学習内容の習熟の度合いに応じた指導、子どもの興味・関心や考え方等に応じた学習活動、補完的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることが大切です。

また実践を通して、予め教材の特性や実態から子どものつまずきを想定しておくこと、1回のチャンスではなく、繰り返し何度もチャレンジできるセーフティネットを意図して単元や授業の計画を組むこと、個々の理解からではなく感じ方を問うことから授業を始めること、子ども同士の教育力を活用することなど、たくさんの方が分かってきました。

さらに、「さぬきの授業 基礎・基本」20pには、学習に関心を示さない子ども等、特別な支援を必要とする子どもへの関わりについても次のように述べています。

学習に関心を示さない子ども等への関わりを振り返る

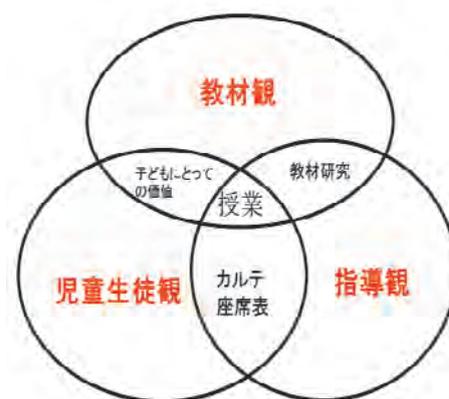
- ☆ 授業の最初の5分間の有効な活用
 - 教師の体験や身近な出来事と絡めた導入
 - 前の時間の振り返り
 - できる見通しを持たせる導入教材の工夫
- ☆ ふと、顔を上げさせる工夫
 - 道具（教具）や映像の活用
 - 話し方の変化
 - 子どもの語りの場面の設定
- ☆ 子ども活躍できる場の設定
 - 実験、実習、体験学習の導入
 - 放課後学習などの個別指導
 - 子ども同士が認め合う活動
 - ゲーム的な要素を含んだ活動
 - ペア、グループ活動、子ども同士の教え合い活動
- ☆ 1時間に一度は声をかける
 - 予め休み時間に声をかける 「〇〇さん、今日は□□するよ」
 - 他の教師との雑談の中で子どものよさを伝え合う
 - 座席の近くまで行き、できていることを見付け、ほめることに努める

このようなユニバーサルデザインの授業づくりは、今後ますます重要になってくることが予想されます。

これらの手立てに共通することは、授業時間における臨機応変な対応に加え、授業時間以外の時間における「意図的・計画的」な授業計画や準備、学級（教科）経営的な発想で「意図的・計画的」に子どもと関わることを重視している点ではないかと思います。言い換えれば、「はじめに教材ありき」ではなく、集団の中で個を育てる学級（教科）経営の大きな流れの中に授業を位置付ける授業観の転換を意味します。児童生徒観から始める授業づくりが求められているのです。

さらに、日常化のためにはCから始めるP D C Aサイクルもまた必要になってくることでしょう。

本冊子が、確かな目で子どもと教材を見取り、子ども一人一人に応じたきめ細やかな指導に役立てていただけることを願っています。



さぬきっ子 学びの三訓

- 一 準備して
- 二 姿勢整え
- 三 しっかり聞こう



香川県教育委員会



さぬきの教員 がかわりの三訓

- 一 共感的に受け止め
- 二 チームの力で
- 三 毅然と粘り強く



香川県教育委員会